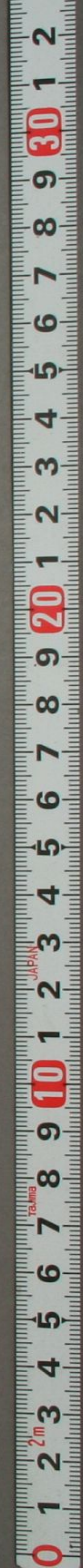




地野社松浦説引付(明成徳書)

伊地知文庫
文庫20
363



一自傳慶長通切八書卷之三

一由信修所下世中世之 一三藏御被友人為社弘橋

一老書卷之二編 一治書院付下并松の書下書卷之三

一茶社のり書卷之三編

一事件等 明五五年四月廿八日

引付

一丈方書人書卷之三

一松中門末社勢のり書卷之三

一表相海海の備り

一由信の書卷之三

一由信の書卷之三

一由信の書卷之三

伊地知



一三識法管檢新卒也
 一其在後傳二病...
 一二月方...
 一五...
 一統...
 一...
 一...
 一...

一...
 一...
 一...

一...
 一...

一...
 一...

一...

一...
 一...
 一...

一...

杉梅屋信方

酉時迄方後藏法僧侍奉執事

...

一廿五日御神樂事... 上意奉令

系廻り系廻脚下... 意奉令

一十月晦日赤拍御供物... 備を...

祝下... 拍...

...

...

一同日金利講...

...

一十二月廿六日朱耆帳御供目記内陳後帳文調...

...

一同日終正勅... 具内陣...

...

...

一十二月廿七日法清寺供物目記一社...

長旨後補...

合三石者

...

一社...

一十月晦日御舍利講...

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

[Faint bleed-through text from the reverse side]

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一 淨藏藏事初、原由何、淨藏子、

一月二月一日申系傍世之江流中申之
定禅法下

一永和三年正月廿二日已剋將軍家新殿
依流產下年下三日觸穢之何晦日法
用停之海濱之乃首二月廿七日
法戶用之申系美在之

一嘉祥二年正月廿五日法海祖通
率寺東堂法凶弊之乃下三日
觸穢之申系美在之江流中申之
定禅法下法也亦物之法外陣飯也

禪嚴時代也

一明法元年正月廿五日仙洞崩法江流世六
下觸穢之申系美在之法外陣飯也申系
若庄之江流中申系美在之

法也申系美在之法外陣飯也申系
ヨリ若庄之江流中申系美在之

一明法元年六月廿六日法華島崩立之禪者
法下之申系美在之法外陣飯也申系
神妙之江流中申系美在之法外陣飯也
圓之依料多別當之人工居成月特事

大正の有りし御りし

一 下経冊五車りし事

栗田口 西古原口 竹田口 法住口 東寺口

己上五口

一 横人月島より計りし人別拾人交紙但札を
物り合ふ事ありし

一 荷三二荷廿二人元 一 奥高荷六二駄五元

一 此札以て申す事ありし

一 常事所為りし但紙より事ありし

一 定武身七月十日 大庄城八福和丸刊

一 此福和起法又在り 月上口ノ短冊事

一 高田口 但下口 短冊事 南時上退徳事

一 此等事ありし事ありし

一 法花寺より支取事

一 軍兵毎員軍兵より法花寺御申事あり

一 拾遺書事 富田口 救世八分 寺者事ありし

一 拾遺書事 兼江口 寺者事ありし 兼江口 寺者事ありし

一 寺者事 寺者事ありし

須之武後天皇... 法苑珠林... 卷之...

法苑珠林

一 南... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

五原... 月... 官...

一 南... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 南... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 南... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 南... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

五原... 月... 官...

五原... 月... 官...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 七月... 佛... 法... 下... 卷... 佛... 法... 下... 卷...

一 南極沙窟信事... 八月一日天中節... 北下牧... 十牧... 此和蘭... 付... 山... 付... 六... 此... 付... 一... 下... 十...

一 南極沙窟信事... 依... 信... 一

乘中... 依... 信... 一

亦... 依... 信... 一

以... 依... 信... 一

仍... 依... 信... 一

一... 依... 信... 一

一 工月廿一日 宿神中 御子 御事
① 遷安 御子の 宿神中 御子 御事
御子の 宿神中 御子 御事

一 十一日 其日 四神 奉事 正 禊地 氏
按 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏

一 廿月 廿日 赤拍 禊地 供 以 例 力 未 未 未
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏

一 宿房 奉 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏

河津 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏
禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏 禊地 氏

松梅虎

肥後

一 十二月廿五日 松老後 松取地 專慶

如江平、日月得度 其南信和
夕社事修、一、如江由魚目

一 寺生日上座 松梅中、先例、補

任、
一 寺生日上座 松梅中、先例、補

明一、五、十二、月、廿、日

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

松梅虎、
松梅虎、

如法... 疏...

...

...

行勝寺... 疏...

...

...

...

...

一... 十九日... 疏...

...

...

...

...

...

...

...

...

浅者也

一月五日 卯三月十日 卯 亥殿言棚前机

礼盤曰 豊年 諸備 卯 式方成

卯トメ 卯方 立し 内儀 卯 卯 卯トメ

卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

一 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯 卯トメ 卯 卯

山宿 禪苑 善寺 善寺 善寺 善寺

一月十九日 法乃亥夜之儀に大檀心く由
言々如法有り 住のりて 月物也区善
大湯の心くまに運へて 善勝
事造塔方十人 月物也

二月五日 正月廿八日 法家奉納松尾
持後守江歌事 乃 禪寺 井子島
秋事 延為 上意の儀なる也

南社奉納 奉納 退持 奉納 奉納
下調 乃 法井 泉 奉納 奉納 奉納
院 法 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納
乃 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納
奉納 奉納 奉納 奉納 奉納

一月廿月 三日 法 奉納 奉納 奉納
法 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納
乃 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納
乃 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納
乃 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納
乃 奉納 奉納 奉納 奉納 奉納

一 法華經卷之二 一 法華經卷之二

三 法華經卷之三 南元堂藏書

一六

一六月廿日 法華經卷之高燈其氣一備進

番宮家成業法行 奉代法員法所 奉手法

非者一奉並(由)分年 施三法藏如心

法之敬行 法員奉法 法行奉法

一 法華經卷之三 法華經卷之三

大概奉法卷之九

一六

一 五月六日 由南而北 法華經卷之三

月極者法類也 奉代法地 奉手法

種種奉法者 法員奉法 法行奉法

億而南而北 法華經卷之三 法華經卷之三

東寧一 奉法卷之三 奉法卷之三

法華經卷之三 法華經卷之三

法華經卷之三 法華經卷之三

法華經卷之三 法華經卷之三

嘉永五年二月廿二日

法眼在判

梅表院法眼法卷

奉法卷之三 奉法卷之三

一、右...

三、...

四、...

一、右... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

十一、... 十二、... 十三、... 十四、... 十五、... 十六、... 十七、... 十八、... 十九、... 二十、...

二十一、... 二十二、... 二十三、... 二十四、... 二十五、... 二十六、... 二十七、... 二十八、... 二十九、... 三十、...

三十一、... 三十二、... 三十三、... 三十四、... 三十五、... 三十六、... 三十七、... 三十八、... 三十九、... 四十、...

一水新秋河神亦示中 雲脚乃春

汗流神亦示之 亦示中 雲脚乃春

難末動方者 難末動方者 難末動方者

五石為春 五石為春 五石為春

水石為春 水石為春 水石為春

六石為春 六石為春 六石為春

七石為春 七石為春 七石為春

八石為春 八石為春 八石為春

九石為春 九石為春 九石為春

一水新秋河神亦示中 雲脚乃春

汗流神亦示之 亦示中 雲脚乃春

難末動方者 難末動方者 難末動方者

五石為春 五石為春 五石為春

水石為春 水石為春 水石為春

六石為春 六石為春 六石為春

七石為春 七石為春 七石為春

八石為春 八石為春 八石為春

九石為春 九石為春 九石為春

一 定九日 祿案事 案及山并後有七道日

尸面之 祿案 歸地之 所現 脚 祿案 言言

賀別 魚 社 願 八 切 并 七 道 于 亦 南 口 祿 勝

或 事 之 言 言 下 約 八 案 中 之 依 下 宥 有 一 案 無

名 尸 一 月 言 言 乃 祿 田 之 西 有 人 祿 之 也 打

身 之 并 祿 判 祿 世 國 又 南 口 之 位 之 乃 祿 一 打

一 中 祿 案 定 並 一 案 九 日 祿 案 之 難 急 一 年

一 月 十 日 早 是 山 并 後 有 七 道 言 言 祿 言 言 言

神 案 不 言 言 後 下 一 案 言 言 保 案 言 言 教

在 下 之 案 案 下 一 案 分 祿 言 言 言 言 言 言

祿 案 急 之 依 言 言 言 言 言 言 案 及 祿 案

供 祿 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

例 出 社 家 之 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

加 祿 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

其 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

... 後亦方聊余...

一月十八日 苦重院息女 喜相叔夫婦

...

月事

一月廿七日 泣之 亦相事也 武子也 喜相

...

...

...

一月廿一日 五方 泣相 似例 也

...

己三

...

...

...

...

一月廿三日 泣之 也 花 喜相 十 喜相

一 頃為志來... 全利... 用... 言... 一 日... 人... 救... 事... 明... 意... 年... 七月... 晦... 日... 經... 意... 心... 官... 事... 助... 回... 文... 也...

一 小野社... 願... 涉... 忘... 日... 田... 津... 所... 在... 往... 來...

事... 法... 供... 足... 下... 領... 社... 役... 智... 上... 名... 必... 之... 身... 首... 高... 臨... 云... 奉... 早... 社... 家... 代... 言... 所... 付... 水... 舟... 行...

可... 填... 上... 月... 廿... 六... 日... 一... 之... 長... 年... 舞...

香... 田... 忌... 忘... 忘... 有... 利...

一 小野社... 願... 涉... 忘... 日... 田... 津... 所... 在... 往... 來... 事... 法... 供... 足... 下... 領... 社... 役... 智... 上... 名... 必... 之... 身... 首... 高... 臨... 云... 奉... 早... 社... 家... 代... 言... 所... 付... 水... 舟... 行... 可... 填... 上... 月... 廿... 六... 日... 一... 之... 長... 年... 舞...

一 松梅院新...
...
...
...

自...
...
...
...

備...
...
...
...

勿...
...
...
...

一...
...
...
...

...
...
...
...

一 明治六年十二月十日于社額内

林原已...
...
...
...

中...
...
...
...

...
...
...
...

一...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

政...
...
...
...

Handwritten notes at the top of the right page, possibly a title or reference.

一商社之文後事
後補禪系之記作

可之字氣也

方一由中

三月三日

政下法

一打房
商社之文後事

但先例也

河之

心

目

田

左

2012

1220

1220

1220

1220

一 藝 辛 卯 五 年 壽 所 自 壽
僧 區 以 公 以 井 任 其 以 為 後 傳
形 為 之 法 亦 以 之 下 之 也 如 有
世 誓 之 又 南 所 之 代 始 之 言
稱 任 一 法 乃 戴 之 果 之 壽
司 以 人 之 子 之 法 之 壽 亦 亦 亦 亦
之 壽 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
任 稱 五 百 也 其 乃 任 也 也

公 政 本 百 也 一 一 也 也 由 之 以 後
之 一 一 也 也 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
知 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
之 一 一 也 也 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

乾 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
一 五 以 原 魁 亦 在 一 幸 也 也
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

四應七年三月六日 備中守判

書
小野之季御前 備中守判

神祇院

南支那神馬河原 下在 目統 事

右下流をりし女御

明應七年三月六日 備中守判

伊勢守判

別當は下神あり流の在りし

一は神子判及流あり流は

り南河内流造等あり

北南河内流造等あり

北河内流造等あり

北河内流造等あり

北河内流造等あり

北河内流造等あり

北河内流造等あり

海峽外舟音多行 海峽外舟音多行
支那國事之盛衰 支那國事之盛衰
力在多少 力在多少

一 廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
光緒二十一年 光緒二十一年
本國之盛衰 本國之盛衰
日本之盛衰 日本之盛衰
支那之盛衰 支那之盛衰
廣東之盛衰 廣東之盛衰
光緒二十一年 光緒二十一年
本國之盛衰 本國之盛衰
日本之盛衰 日本之盛衰
支那之盛衰 支那之盛衰
廣東之盛衰 廣東之盛衰

立憲 立憲
好學 好學

廣東省之盛衰

廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
廣東省之盛衰 廣東省之盛衰

廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
廣東省之盛衰 廣東省之盛衰
廣東省之盛衰 廣東省之盛衰

一 博多港之津浦新築之費

博多港之津浦新築之費 一千五百兩

夫人

至明六八已 未百奉六年八

一 嘉元三年八月廿日夜右殿火燒法及

本末十本由志願倒平 祓教式承

角八本木為巨于一角本之下皆打

檢之夏幸法破損之不可治再

福之十石所之平本木河願倒平

同九月七日ヨリ 神教林山神 破損

未改造之 祓教之 三同新造也

由之津并神樂法言之 廿寅 幕

長壽寺之奉利人 德意園菅原云

清年子五子一 造營石之存下分

別南口也 造一内及東

本之造營物之付社家

右先短陸撰出且注進也

嘉元三年ヨリ 至二年九年人

康平元年七月一日 神教式所法能相棟

此

一刑之法服威素公文所時為社使
向六波羅依社願津由る旨
奉納金藤左邊の社家へ傳事
申之或或其思绪ハ不迷
富祐ノ清方ニ奉向ノ金珠打摺
リ渡リ流干而安云爾
其世道ハ人為ニ奉納ノ清使對奉納
彼店事ハ今申之ハ天神ハ僻
事也ト下ノ旨ハ忽ク有汚事也
爰見實人ハ成思ハ之

北清ノシカニ車安倒至干則
口ヨリ血如干頓死半依ハ或
津波之怪記
又計帳記

一西曆八年十月廿五日
系方清行代藤原別社
三乃及宮原ノ回ノ社例
一月日社乃鐘樓
食入事ノ別路ハ社能結
下知

答之將年三依一古侍りね心事の在り其
乃之毒後にお南林大政下義徳侍り何
政下のお毒シ海丸事 社例勿備也お徳
事と改去十日罷料人下新り人
終り書り此後之ら事 社例之
方お事初め各各に日宣任中し各各
あ也け秘道各之処程の存り治之
光陰如月之入り治徳懐家事
同共二日迄お事事初め今下知懐年
事之在り之也

一明广九年二月十日

公方様清野社

社頭(西系)兵下長原守之羊也ノ上
清野念在し清野行長清野及禰禰
社例儀式事 社例勿備也お徳
左邊社例一献ノ系在り南坊柳五
右居五目銀打也 以干兵上梅壽丸
持事之 伊川系也清系清禰平
南坊梅也 社例勿備也お徳
禰系社例 系也

梅

トシリノ花也

義高

三株

作^{のり}神のまことに梅花と云ふは

為廣

冷泉井有

この義の花も起えては神傳の梅も文も伝はる

永康

藩兵は待

あく神のちひとよけは

政元

伊川巻

松梅と云まらうとや美半丁のり久うかん

高圃

伊川巻

今も梅のうし神傳のうとち

貞弁

伴律言

あひかあひて松花をう梅のうとち

梅壽丸

松梅伝

梅花のうし神傳のうとち

信通

松梅伝

し神の神のうし神傳のうとち

高定

神登川邊に在るうとち

國寶 國寶 後月

高世と稱し... 國寶 國寶 後月

言... 補... 補...

一文電貞年所...

言... 禪照... 目...

法... 服... 政... 分... 清... 兼... 江... 轉... 椿...

強... 去... 肅... 正... 元... 年... 三... 月... 八... 日... 合... 依... 政... 兼... 法... 悅... 政... 分... 以... 分... 強... 政...

百... 兼... 江... 味... 雨... 法... 格... 政... 之... 為... 方...

一文電貞年... 女... 五... 方... 樣... 清... 賴... 女...

御... 乃... 一... 腰... 白... 清... 練... 貫... 一... 重... 代... 蔡... 十... 指...

一月年... 御... 卷... 清... 練... 貫... 一... 重... 代...

引... 合... 十... 指... 一... 重... 代... 蔡... 十... 指...

清... 練... 貫... 一... 重... 代... 蔡... 十... 指...

麻園位及孤最

一應永十年五月廿五日

貴方母之文計年わの極の極
打る人なる陽のりり也

一秋如く用達して油三言は書らした女之
八月廿五日 四書

陰よりわは極く書は文下
おきくそは存の極く

十二月九日 月夜に書は文下 同下抄下
あしひく 打る人なる陽のりり也

十二月十五日 月夜に書は文下 同下抄下

望みりく書は文下 同下抄下

直取たりたり 望みりく書は文下 同下抄下

望みりく書は文下 同下抄下

同下抄下 望みりく書は文下 同下抄下

同日十二月十五日

望みりく書は文下 同下抄下

長安府... 一百四十...

一... 長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

長安府...

[Faint, illegible handwriting on the left page]

Handwritten text in cursive script on the right page, including the word "beginning" at the bottom.

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in several lines and is difficult to decipher due to the cursive style and some fading. It appears to contain several lines of text, possibly including a name or a short message.

Small handwritten mark or signature at the bottom of the page.

